

【テーマ】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組 ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

(1) 現代社会と健康 生活習慣病などの予防と回復（身体活動・運動と健康）

1 実施の概要

(1) 実施環境：HR教室（Wi-Fi環境あり）

(2) 使用機器：教師用タブレット，生徒用タブレット，プロジェクター，教科書，図説，授業プリント

(3) 活用ソフト：Power point, MetaMoJi, MicroSoft Forms

(4) 対象：入学年次 40名

2 実践研究のねらい

・生活習慣病などの予防と回復（身体活動・運動と健康）について、教員・生徒が相互にICTを活用し、授業を展開する。生徒は知識を身に付けるだけでなく、得た知識を自身の健康課題の解決に向け活用する能力を育成し、教員は評価規準に則り、効果的な学習評価につなげる。

3 具体的な活用方法

- ・ICT（パワーポイント）を活用し、生徒自らが授業スライドおよび発表ノートを作成し、発表を通して深い学びにつなげる。
- ・ICT（Forms）を活用し、発表に関する相互評価を実施する。
- ・ICT（MetaMoJi）を活用し、授業スライドを生徒自身のタブレットに配信することで理解を促す。

4 活用の実際 (ICT環境を生かした指導の工夫)

【学習の流れ】

【導入】

- ・挨拶
- ・本時の目標、内容の確認
- ・発表グループ準備



【展開】

- ・生徒による授業
- ・プレゼン評価 (Forms)
- ・教師による授業



【まとめ】

- ・本時の学びの振り返り
- ・授業プリント
- ・挨拶

【活用場面】 場面：生徒による授業

4人1グループで生徒自身がPowerPointを使用し、担当分野における授業を行った。教科書の内容を基準に、自身の健康課題や高校生ならではの視点を取り入れながら授業を行った。

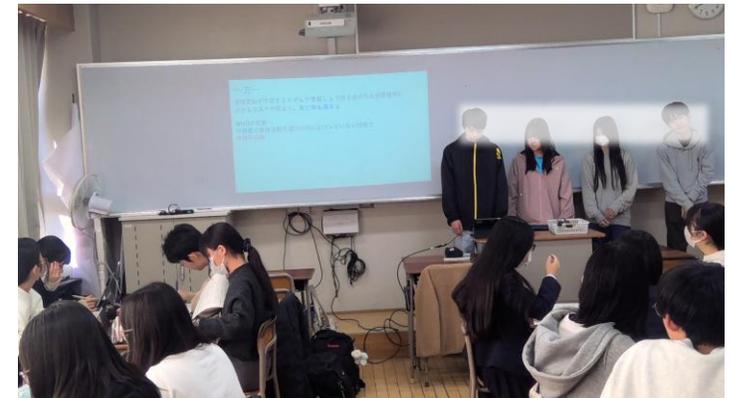
【工夫した点】

- ・生徒による授業をスムーズに行うために、事前にスライドを確認し、一定の統率を行った。
- ・プロジェクターにQRコードを投影し、速やかな相互評価を行った。
- ・ICTを活用した授業だけでなく、紙ベースの授業プリントを使用し、書くことによる知識の定着を図った。
- ・教師による授業では、生徒による授業と重複を減らし、幅広い内容を扱うことに留意した。

【活用場面写真等】



【活用場面写真等】



5 参加した生徒の感想等

- ・実際に自分たちで授業を行うことで、形式的な学びではなく実践的な学びにつながったと感じる。
- ・プレゼン内容をQRコードを使用して評価したことが初めてのことで、斬新だった。
- ・生徒による授業、教員による授業の復習的な学びによって知識理解がより深まった。
- ・手元に資料があり、授業を聞くことができる環境は非常に学びやすいと感じた。

6 成果と課題

【成果】

- ・生徒が「聞くだけの授業」ではなく「創る授業」を実施したことで、より生徒の視点を導入した内容を扱うことができた。
- ・ICTを活用することで、情報や知識を活用し、課題の思考・判断・表現する能力の向上に寄与できた。
- ・生徒の相互評価を実施し、多角的な視点を取り入れたことで、評価方法の妥当性が確保できた。

【課題】

- ・生徒によって取り扱う内容に差異が生じる可能性があるため、事前にプレゼンを確認し、内容について一定の統制が必要であった。
- ・グループによるプレゼン評価であるため、プレゼンによる個人内評価が困難であった。
- ・スマートフォンや自身のタブレットを使用することが前提であるため、インターネット環境に左右される場合があった。